



## 建学の精神

「愛をもって仕えよ」  
(ガラテヤの信徒への手紙 5 章 13 節)

柳城学院の建学の理念が示すところは、イエス・キリストの《愛の教え》です。

キリスト教の理想を礎に、保育者として期待される人間性の教育と保育者としての専門教育を、併せ求めていくところに柳城学院の特色があります。



柳城学院 校章・マーク  
「SEQUIMINI ME」（ラテン語で、我に従えの意）は、アンデレがイエスに出会ったときに呼びかけられた言葉で、彼は最初の弟子になりました。「アンデレ・クロス」（×字型の十字架）は、イエスの教えを守り通して殉教した聖アンデレの偉大なる生涯のシンボル。最後まで「自由と愛」のキリスト教精神によって生きることを示しています。

## 学校法人 柳城学院

〒466-0034 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-25

TEL : 052-678-4080 FAX : 052-682-6811



## 創立

名古屋柳城短期大学の前身である〈柳城保姆養成所〉は、カナダ聖公会の宣教師マーガレット・ヤングによって、金城女学校を卒業した杉浦いねを生徒として1898年(明治31)開始されました。杉浦は生徒であると同時に、ヤングの日本語通訳及び、幼稚園と保姆養成所の働き手ともなりました。幼稚園設立前には、ヤングとともに神戸のミス・ハウの頌栄幼稚園、広島女学院附属幼稚園で研修を受けています。

翌年には、大阪からフレーベルの教育遊具(恩物)や机、オルガンなどを取り寄せて白壁町に柳城幼稚園を設立。フレーベル教育では、幼稚園と保姆養成所は一体のもので、ヤングは最初から意識して運営しました。名前の由来は、今川義元の父、氏親が那古野台地に築いた〈柳の丸〉という城にあります。1902年(明治35)カナダ聖公会伝道協会(MSCC)が結成されて、ヤングの働きを支援することが決まり、経営的にも安定しました。1885年(明治18)に発足したカナダ婦人伝道補助会(WA)も、同様の支援を行なっています。

ヤングの住居に付随していた門長屋を改造した幼稚園は15人も入れればいっぱいになってしまうため、その後、檀木町を経て東片端に移転しています。聖使女学院が芦屋に移転することになったため、1910年(明治43)柳城幼稚園はその跡地を譲り受け、再び白壁町に戻ってきました。保姆養成所も〈柳城保姆伝習所〉と校名を届け出しています。

ヤングは、カナダとは違って日本においてはキリスト教が自明でないので、教育プログラムに礼拝を取り入れる必要性を痛感します。また、園児を通しての家族への宣教が多くの成果を上げているという報告も残されています。

1910年(明治43)に南鷹匠町の聖ヤコブ教会に幅下分園を開設したのに続き、大池町の聖ペテロ教会に1914年(大正3)大池分園を、池下に1928年(昭和3)瑞穂幼稚園を設立しています。地域性の異なる4カ所の幼稚園を次々に開設した背景には、ヤングが子供にもPTAにも地域色があることを理解していたからかもしれません。

戦後になって、1949年(昭和24)短大への準備が開始され、翌年(柳城女子学院)として現在地(昭和区明月町)で開学、幼児研究所が併設されました。

## 創立の背景と歴史

18世紀のイギリスは、SPG(Society of Propagation of Gospel:福音宣教協会)とCMS(Church Missionary Society:教会伝道協会)という神学的傾向の違う二つの宣教団体が存在し、世界各地の植民地にそれぞれに宣教師を送っていました。日本に最初に来たアメリカ聖公会のC・M・ウィリアムズ主教は、二つの宣教団体とアメリカ聖公会に呼びかけて、大阪で第1回の総会を開き〈日本聖公会〉という教派名を定めました。立教大学、桃山学院など多くの教育機関や聖路加病院などの社会組織が日本聖公会に所属していて、柳城はこれらの学校や組織と定期的に関係を持ちながらさまざまな教育理念を分かち合ってきました。

のちにイギリス国教会のピカステス主教とアメリカ聖公会のヘアー主教が日本における分担教区を決め、柳城学院が位置する中部教区は、カナダ宣教団の管轄となりました。名古屋・岐阜の中部地区への宣教は、岐阜において英語教師であるA・F・チャペルが行なったものが端緒であり、1890年(明治23)会堂建築も果たしています。また、東京のA・C・ショウ司祭の勧めで、CMS系のJ・ロビンソン司祭夫妻が1888年(明治22)11月末に名古屋にやってきました。ショウが名古屋行きを示唆したのは、名古屋には港がなく、外国人居留区もつくられなかったので伝道地としてまだ未開拓であったからです。

ロビンソンが名古屋入りして3年後の1891年(明治24)、濃尾地震が起きました。この地震により、多くの人が住む家をなくし、親を失い孤児となった子供たちが路頭に迷いました。この惨状に対し、チャペルや森巻耳は内外からの寄付金で罹災した視覚障害者のための救済事業として〈鍼灸伝習所〉を設立しました。1894年(明治27)には、岐阜聖公会訓盲院が始まっています。ロビンソンはまた、名古屋代官町に幼老院をつくり、多くの困窮者を援助しました。明治20年代は欧化主義の反動でナショナリズムが台頭した時代で、キリスト教の伝道に対しては多くの迫害が行なわれましたが、濃尾地震への救済事業を行なったキリスト教伝道者の姿に接し、その迫害は止んだといわれています。ヤングが活動を始めた当時、名古屋はこうした状況にありました。

ヤングはカナダ・オンタリオ州で生まれ、ハミルトン市師範学校で学んだのちに、エールマ市の公立幼稚園に務めました。幼児教育の祖といわれるドイツのF・フレーベルの幼稚園と教育方法は、カナダではまずオンタリオ州に伝えられました。幼児の心の中にある神性を伸ばしていくことを目指し、ヤングもこの教育法を学んでいます。

短大は、長らくカナダ聖公会の支援を受けて、塾的な信徒養成機関として存在しました。1898年(明治31)から1922年(大正11)までの24年間に28人の卒業生という実態は、バイブルウーマン養成のために密度の濃い教育に注力してきたことを物語っています。しかし、日本の教会が自立することで宣教熱を失い、組織力が低下した伝道協会は1970年(昭和45)の支援打ち切りまでに規模を縮小していき、経営の自立のための試練を柳城にもたらしました。しかし、1965年(昭和40)2代学長に就任した坂東喜久が中心となって難局を乗り越え、ヤングの蒔いた種を育み続けています。



創立者 フレデリック・チャールズ・クライン  
(1857~1926年)  
「敬神愛人」の精神で、名古屋におけるキリスト教開拓伝道を行ないました。